

2020年10月20日

松風台自治会会員各位

松風台自治会長 晴山 暁子

折りたたみ式ごみボックス「からすいけいけ」の現状調査結果と今後の方向性

昨年度より、自治会ではカラス対策としてごみボックス「カラスいけいけ」の設置を進めています。全25か所のごみステーションのうち15か所設置し、設置後アンケート（前年度設置のステーションと、今年度設置したステーションの一部の利用者に対して）をとり、結果をまとめました。また、ごみステーションの現状、ごみの集積状況の実際を見させてもらいました。この2点をもとに考察してみました。

ごみボックス「カラスいけいけ」についての考察

- 1、カラスによる被害が減り、安心してごみが出せるようになった。
- 2、組み立てが簡単。ごみネットの時は、ネットをセットする、ネットを広げて入れる、片付けが大変であったが作業が楽になった。高齢者や体が不自由な人にも設置、片付けが楽。
- 3、ごみボックスにしたからといって、カラスの被害は完ぺきに防げるわけではない。ごみの捨て方の対策は引き続き必要。また、集積後の清掃はしっかり行う必要はある。
- 4、常設するお宅には申し訳ない。また、街並みとして景観は悪くなっている。
- 5、常設するには、バス通りであったり、車の交通事情、ステーション宅の外壁や庭の構想上無理な場合がある。
- 6、ごみボックスの「カラスいけいけ」の設置後のメンテナンス等の取り決めが必要。

以上の結果より折りたたみ式ごみボックス「カラスいけいけ」はカラス対策だけでなく、高齢者にとっても負担が軽減されている効果がみられています。しかし、未設置のごみステーションの中には、折りたたみ式ごみボックス「カラスいけいけ」の設置がさまざまな問題で難しい場合もあり、利用されている会員の方々の意見を聞きながら、カラス対策をとっていく必要があると考えています。また、ごみステーション利用者間で話し合いたい意向があれば、自治会として協力していきたいと考えています。

以上